

暴力から身を守ろう

子どもへの暴力防止プログラム（CAP＝キャップ）を学ぶワークショップが1月23日、御厨小学校で開かれました。

松浦地区連合防犯協会御厨・星鹿支部（川崎良郎支部長）が、子ども自身が暴力から身を守る力を身につけてほしいと企画したものです。

この日は、CAPの普及に取り組む佐世保市の特定非営利活動法人「子どもと女性のエンパワメント佐世保」（桜井栄子理事長）のメンバー3人を講師に招き、3、4年生を対象に行われました。

ワークショップでは、「安心・自信・自由」に生きるという「子どもの権利」の大切さを学んだ後、寸劇を通していじめや誘拐などから身を守る方法について指導を受けました。桜井理事長は「互いに助け合い、相談することで、暴力から身を守れるということを感じとってほしいです」と話していました。



市PTA連合会が研究大会

平成19年度松浦市PTA連合会（藤田英敏会長）の研究大会が2月3日、文化会館で開催されました。

子どもたちの健やかな成長を目指して毎年開催。今年、「もう一度見直そう、親の役割 大人のあり方～家庭における子どもへのかかわり方～」を研究テーマに開催されました。

長崎大学教育学部の村田義幸教授が「学びあい、響きあう社会をめざして」と題した基調講演を行い「子どもを育てるためには親や地域を含めた大人が、共に育つ『共育』、協力して育つ『協育』、響きあいながら育つ『響育』という3つの『きょういく』を大切にすることが重要です」と呼びかけました。

大会に参加した市内の小中学生の保護者など約500人は、親や地域の大人としての子どもへのかかわり方などを学んでいました。



福っ娘が豆まき

2月3日、今福神社で節分祭があり、福っ娘に扮した中高生による豆まきが行われました。

地域に残る文化の継承と、町の活性化を目的にはじめて今回で9回目。

この日は、松浦東高3年の安達なつみさん、調川中3年の宮崎多恵さん、橋川あいみさんの3人が福っ娘を務めました。巫女の衣装を身にまとった3人が、「鬼は一外！福は一内！」と元気に豆をまき、集まった氏子たちはうれしそうに豆を拾っていました。

またこの日は、今福神社のほか町内10カ所で巡回豆まきも行われました。



まちの話題



豊作を祈り葉タバコの種まき

松浦葉たばこ生産組合（久保川一組合長）が1月25日、御厨町の組合共同育苗ハウスで葉タバコの種まきを行いました。

種まきには、同組合員や江迎町・鹿町町の生産農家約20人が参加。1ミリの小さい種を水に混ぜ、じょうろで苗床にまいていきました。

まかれた種は、20日程度で発芽した後、組合員がそれぞれ持ち帰り栽培ポットに移植。3月中旬に畑に定植し、5月中旬ごろから収穫する予定です。



おじいちゃんと「たこ」作り

星鹿保育所（山口太子所長）で1月17日、園児と地域の高齢者がたこ作りを行いました。

同保育所が、昔からある遊びのたこ揚げのたこ作りを通して世代間交流をと毎年実施しています。

この日は、地域の老人クラブ星老会（大野勝三会長）の会員6人が、4～6歳の園児32人と一緒に「ようちょう」と呼ばれるひし形のたこを作りました。

会員たちは、ナタや小刀を使って削ったもうそう竹を、漁業の網用の糸で縛って骨組みを制作。園児たちは、自分たちで絵を書いた障子紙をセロハンテープで骨組みに貼り付け、完成させました。また翌日、同会員と園児で手作りのたこでたこ揚げを行い、楽しいひとときを過ごしました。



喜内瀬貯水池で竣工記念碑除幕

福島町喜内瀬地区にある喜内瀬貯水池で1月27日、同貯水池の完成を祝う記念碑の除幕式が行われました。

同貯水池は、採石業を営んでいた協立産業と喜内瀬地区から、旧福島町が無償譲渡を受けたもので、平成17年度から総事業費約2億6百万円の簡易水道改良工事を実施。平成18年7月、総貯水量65万2千トンの貯水施設が完成し、同年9月から、同町世帯の約85%に水を供給する福島簡易水道の貴重な水源として利用されています。

除幕を行った前福島町長志水勝輔さん（福島・日の浦、68）は「慢性的な水不足の中で水源確保に努め、待望の貯水池が確保されました。この貯水池によって企業誘致や下水道整備の進展にも期待しています」と話していました。



梶村トヨさんが100歳



梶村トヨさん（鷹島・神崎）が2月5日、入所中の武部病院（今福町）で100歳の誕生日を迎えました。

梶村さんは、明治41年に佐賀県肥前町で生まれ、結婚して鷹島に嫁いできました。現在は、子どもからやしゃごまで合わせて9人。夫を戦争で亡くしてからは、定期船での仕事や裁縫で生計を立てていました。平成16年から同病院に入院。普段は、ほとんど部屋で過ごしていますが、職員に「手伝おうか」と声をかけ、病棟で使用のおしぼりを巻いたり、エプロンをたたんだり、すすんで手伝いをしています。

この日梶村さんは、家族や同病院の職員から祝福され、友広市長からお祝いの言葉や花束を受けました。「野菜を中心とした食事をとったり、好き嫌いなくなんでも食べることが長生きの秘けつ」と話す梶村さんは、100歳を元気に迎えられたことを喜んでいました。

これで、市内の100歳以上の人は15人となりました。

48チームがバレーボールで熱戦

第13回弥生杯小学生新人バレーボール大会が2月9、10日の両日、文化会館など6会場で開催されました。

県内や佐賀県から、女子32チーム、男子16チームが出場（市内からは10チーム出場）。予選・決勝を各パートで行い、2日間にわたり熱戦を繰り広げました。

結果は次の通りです（予選パートで同順位同士の対戦、各パート上位の市内チームのみ）。

〈女子〉

2位パート

2位＝青葉クラブ
（御厨小）

4位パート

4位＝田代クラブ
（田代小）

